



竹田城（兵庫県）に代表されるように近年の全国的な山城に対する関心の高まりの中で、本町を代表する城跡である京城跡の歴史的、文化的意義が再認識されるようになりました。

京城跡は、天守台状の土塁や居住域と考えられる曲輪、また、山城としては、全国的にも珍しい石垣を伴うなど、

紀宝町教育委員会
西 章 教育長

この地域では赤木城や鬼ヶ城に並ぶ規模を誇っていたと考えられます。そのため、中世におけるこの地方の動向を探る上でも貴重な価値を持つ城であると認識されています。

町としても京城跡が持つその高い価値や魅力等を、小・中学校においても郷土学習等を通じて町の歴史的文化遗产としての認知度をさらに高め、郷土への更なる愛着が深まるように取り組んでいきます。

本年3月に「京城跡将来像の基本構想」を策定いたしました。折しも文化財保護法が来年度から改正されることもあり、国の施策とも歩調を合わせる形で、今年度中に「京城跡の保存・活用計画」の策定を目指したいと思っております。

今後とも、地元のみならずをはじめ関係者の方々、関係機関と協力しながら整備・保存を進め、貴重な歴史的資源として更なる地域振興に資する取り組みを推進していきます。



当社では文化財の計画策定から整備まで行っており、このたびは京城跡の基本構想、および保存活用計画の策定などに関わらせていただいております。

京城跡は、岩盤を深く削った二重のすばらしい堀切があったり、その当時としては大きな石垣があったりする点で、全国的に見ても大

京城跡保存活用計画委託業者（株式会社イビソク）
主任 大迫 賢一 氏

変価値があるものだと考えています。

ただ、現状では木がかな繁っており、遺構に影響を与えているものも多いので、そこはしっかりと整備して遺構を保全できるようにしていきたいと思っております。

この事業に関わらせていただく中で、なによりも地域の住民の方がしっかりと関わり、さまざまな熱い意見が出ているのが印象的です。また、みなさんすごく温かい方ばかりで、そういったところが個人的にも素敵などころだなど思っています。

まずは、各種の調査を進めて、京城跡の何を一番大事にしていくかなどをしっかりと話し合っていたいただき、指定や整備を進めていくのが重要だと考えています。

住民の方々の熱い思いを大切にしながら、今後も事業のお手伝いをさせていただきます。

京城跡をはじめとした歴史遺産は、ただ過去のものがそこにあったというだけでなく、この地に人が住み、生き続けていた証を 私たちに伝えてくれるのです。

その証を、未来を担う子どもたちに、繋いでいくということは 私たちがこの地に生き続けていることを残すことでもあります。

京城跡にはまだ多くの謎があります。同時にそれらを解明する宝が眠っている可能性もあります。

調査を進めていくことで 解明される謎もあるかもしれませんが、そこに込められた記憶を知り 伝えていくということが 地域を知り、ひいては地域を愛することにも 繋がっていくのではないのでしょうか



参考文献

- 伊藤裕偉（2011）『聖地熊野の舞台裏』紀宝町（2004）『紀宝町誌』
- 紀宝町教育委員会（1990）『文化財を訪ねて』
- 紀宝町教育委員会（2011）『羽山地遺跡（第1次）発掘調査報告』
- 紀宝町教育委員会（2014）『羽山地遺跡（第2次）発掘調査報告』
- 福井健二・竹田憲治・中井均（2012）『三重の山城へスト50を歩く』
- 西股総生（2016）『図解戦国の城がいちばんよくわかる本』